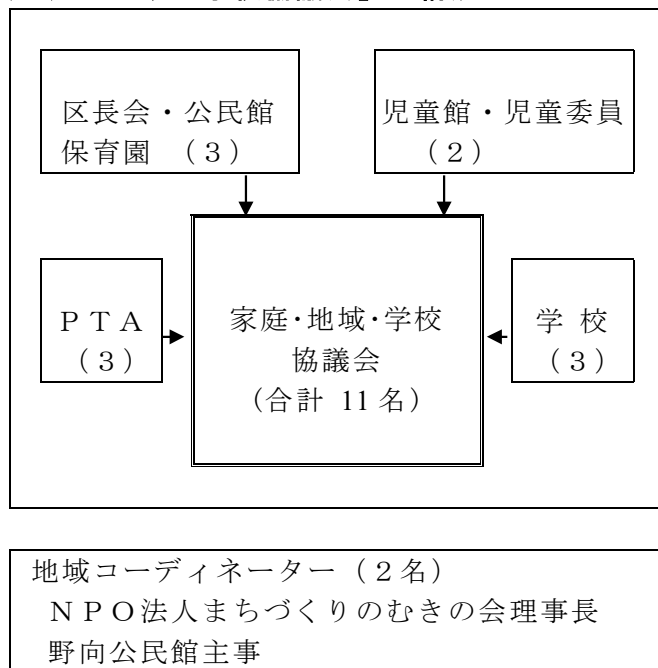


1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「地域・学校協議会」の構成



(2) 協議会の内容

- ※開催回数・・・2回
- ※開催日程
 - 6月12日(水) 19:00～20:30
 - 2月12日(水) 13:30～15:10
- ※協議内容
 - <6月>
 - ・教育目標や運営方針説明
 - ・地域の特性を生かしたふるさと教育について
 - ・見守り隊活動について
 - ・最近の児童の様子について
 - <2月>
 - ・授業参観
 - ・子どもたちの様子について
 - ・学校評価の考察と課題
 - ・地域、家庭、学校の連携に関する取り組みについて
 - ・次年度に向けての方策

(3) 協議会における成果と課題

- ・本校は完全複式校で、児童、教職員ともに少ない人数である。教育活動が、保護者や地域の方の支援によって行われている部分も多い。地域コーディネーターの方に大変なご努力をいただいている。関わりが深いためか学校の活動への理解も深く、学校評価では高い評価をいただいている。
- ・学校教育と地域の活動を結びつけて、さらに「野向が大好き」という児童を増やしていくためには、今後どのような活動を進めていくのがよいか検討が必要である。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

- ・地域に根ざした体験活動を通じて、ふるさとの良さを再発見し、地元を誇りに思う児童を育てる。
- ・地域の自然や文化に愛着を持って進んで活動に取り組み、課題を解決する力と工夫して発信する力を育てる。

(2) 活動の実際

①地域の魅力を発見・発信(3～6年)

低学年・中学年は、町民文化祭で農作物をテーマに劇やクイズを発表した。高学年は、キャリア教育の一環として、のむき風の郷・野向保育園・野向公民館を訪問して働く人々を取材し、パンフレットと動画にまとめた。パンフレットと動画は、6年生が修学旅行先の京都の商店街で、地域のPRを行いながらエゴマを販売した。また、図工の時間に考えた野向キャラクターをクリアファイルとして製作し、1月の「勝山年の市」で風の郷の販売の手伝いと野向地区のPRをしながら配布した。



②農産物の栽培・収穫体験（１～６年）

毎年、地域の農産物であるトウモロコシとサツマイモ、特産物のエゴマの栽培やコスモスの播種などを、地域のNPO法人の畑を貸していただいている。栽培技術についてもNPO法人の方々を講師に迎えて指導していただいた。

今年度は新しく地域の方にハウキの苗をいただいて育てることにした。各複式学級で農産物を分担し、１・２年はサツマイモとコスモス、３・４年はトウモロコシとハウキ、５・６はエゴマとした。例年通りサツマイモは、保育園の年長の園児も参加し、保・小の連携を図った。新しい試みとしてエゴマを学校の近くの畑で播種から苗を育て、苗植え、収穫をすることにした。エゴマは夏季まで順調に生育し、花は咲いていたが実は結ばず、収穫することができなかった。担当の講師の方によると畑の横に設置されている街灯が虫を寄せ付けないタイプなので、受粉しなかったのではないかとということであった。今後の活動に活かしたいと考えている。



③地域の伝統文化「雅楽」の継承（３～６年）

年間を通して講師（勝山雅楽会）に指導していただき、練習する時間を設定した。地域の方や保護者に披露する場を、野向町コスモス祭り、町民文化祭、卒業式とした。今年度は、台風のためコスモス祭りは中止となったので代わりに公民館学級で「演奏会と雅楽体験」を行った。保護者にも衣装を着付けてもらったり、楽器にふれてもらったりした。

（３）地域コーディネーターの活動概要

- ・地区の各行事に児童が参加する際の企画や運営側との調整
- ・特産物の栽培のスケジュール案の提供と技術指導
- ・特産物の栽培における畑や農機具の手配

（４）特に工夫した事項

- ・高学年はキャリア教育の活動を行うことができた。これまでは、町内の各施設の特徴を調べてパンフレットを作成していたが、今年度は働く人々に焦点を当てて取材し、自分たちの将来、野向町の将来にも目を向けさせることができた。
- ・総合的な学習の時間に取材したことをもとに、図工の授業で野向を題材としたキャラクターを制作し、発信のツールを増やした。今年度はキャラクターの原案をクリアファイルに仕上げ、勝山市の年の市で配布することにより発信することにした。
- ・雅楽については、公民館学級と連携して体験教室を実施した。児童・教職員、保護者、公民館職員、地域外の方の参加もあった。内容は雅楽衣装の着付け体験・児童の演奏会・雅楽楽器の体験教室であった。保護者も地域外の方も雅楽楽器に初めて触れる方が多く、児童が手ほどきしながらとても楽しく温かい時間を過ごすことができた。特に保護者は楽器の音だしが予想以上に難しく、改めて児童の努力に感心されている様子が見られた。

（５）成果と課題

事業最終年度となり、公民館や地域の各団体と連携が確固としたものとなり、１年間の事業を円滑・効果的に進められた。この事業が契機となり、地域の方と学校、保護者と地域、地域の方と児童がそれぞれさらに親しく関わられるようになった。児童については、地域以外での発表や活動を通して目標や目的をもち、協力して成し遂げていく姿勢が高まり、地域に誇りをもてるようになった。

課題としては、今年度は台風が多く発生したことにより、いつにも増して諸活動に影響が及び、年度当初に計画した日程や成果物が変更になった。環境により農作物は大きな影響を受けることを学習できたと考えて今後の活動に活かしたい。さらに児童の地域への愛着や自尊感情を高めていくには、児童自身が活動の成果を確認する取り組みを工夫する必要がある。

